

群青

仙台市立第一中学校

第2学年だより

第2号 2023.4.17

新年度のスタートは上々？

新入生が入学し、最初の週を終えました。「良い先輩像」を追い求めていきたいという気持ちは、文章や発言からほとんどの子どもたちが抱いていると捉えています。

そして、その通り、入学式の準備、対面式の運営、部活動毎の体験入部など至るところで頑張っている子どもたちの姿を見て、とても頼もしく思いました。

一方、学級、担任が変わり、周囲との新たな関係も構築しなければなりません。

むしろ、昨年度よりも神経を使うことが多いのではないかと察しています。頑張る子どもたちなので、オーバーワークにならないよう、リバウンドの兆候も見過ごさないよう、全体を見渡していきたいと思っています。

新型コロナウイルスの影響で制限が加わっていた入学式でしたが、本年度からご来賓の皆様にご参列いただき、合唱団による校歌披露も実施することができました。また、翌日の対面式も思いのこもったいい行事になりました。生徒総数657名の一中が動き出しました。



どろんこまみれの大仕事!お野菜まん菜大喝采!! 野活準備状況

一方、野外活動に向けた準備も順調に進んでいます。

先週金曜、各学級毎に活動班・民泊班を編制しました。どの学級も滞りなく進んだと認識しています。実行委員の働きかけがあつてのこととうれしく思っています。また、費用の納入、昨年度末の健康調査の提出ありがとうございました。

健康調査、並びに班名簿を先方(大田原グリーンツーリズムさん)に送付しました。その内容をもとに宿泊先並びに体験内容を決めていただくことになっており、連絡を待っている状況です。

民泊先が具体的に決まると、準備物等も明らかになってきます。来月初めにはしおりも完成する見通しですので、ご準備にお役立てください。



二十四節気「穀雨（こくう）」4/20～5/4頃

穀雨（こくう）とは、地上にあるたくさんの穀物に、たっぷりと水分と養分がため込まれ、元気に育つよう、天からの贈り物でもある恵みの雨がしっかりと降り注いでいる頃のことです。

七十二候



・葭始生（あしはじめてしょうず）4/20～4/24頃

水辺の葭が芽吹き始め、山の植物、野の植物が緑一色に輝き始める頃。葭は、最終的にすだれや屋根などに形を変え、人々の生活を手助けしてくれます。

・霜止出苗（しもやみてなえいずる）4/25～4/29頃

暖かくなり、霜も降らなくなり、苗がすくすくと育つ頃。田植えの準備が始まり、活気にあふれている農家の様子が連想できる言葉です。

・牡丹華（ぼたんはなさく）4/30～5/4頃

百科の王である牡丹が開花し始める頃。美しく、存在感があり堂々としている牡丹。中国では、国の代表花として牡丹があげられ、数え切れないほどの逸話や美術に登場します。

日	曜	朝読	I	II	III	IV	V	VI	給食	部活動	行事等
17	月	○	1	2	3	4	金6	学活	○	○	授業開始 開校記念日
18	火	○	臨時時間割						○	○	
19	水	○	1	2	3	道徳	水5	-	○	-	職員会議
20	木	○	1	2	3	4	5	総合	○	-	専門委員会
21	金	○	1	2	3	4	5	-	○	○	市中体連専門部総会
22	土										
23	日										
24	月	○	1	2	3	4	水6	学活	○	-	校友会任命式
25	火	○	1	2	3	4	5	-	○	-	学年会議 [尿検一次提出]
26	水	○	1	2	3	道徳	5	6	○	○	[尿検予備日]
27	木	○	1	2	3	4	5	総合	○	○	中央委員会
28	金	○	1	2	3	4	5	P	弁当	-	授業参観, 師親会総会 学年保護者会, 学級懇談会
29	土										〈昭和の日〉
30	日										

5月の行事予定

1日(月)安全点検日 2日(火)部活動集会 10日(水)中総体抽選会, 尿検二次 11日(木)職員研修日
12日(金)専門委員会, 眼科検診(1,2,3組), 野外活動結団式 15～17日(月～水)野外活動(栃木県)
18日(木)2年休業日 19日(金)解団式, 中央委員会, 眼科検診(4,5,6,7組) 22日(月)職員会議
24-26日(水-金)3年修学旅行 25日(木)1年校外学習 29日(月)学年会議
30日(火)歯科検診(4,5組) 31日(水)歯科検診(6,7組)

行事連絡が遅れ、昼食の準備等大変ご迷惑をおかけしました。申し訳ありませんでした。

「朝のバス停」2021年4月1日 朝日新聞天声人語

和歌山市役所に勤める山崎浩敬さん(59)は、毎朝7時台、同じ時刻のバスを待つ。目の見えない山崎さんにとって乗り降りは大変だが、そのバスなら小学生が乗り合わせ、手助けしてくれるからだ。

「バスが来ましたよ」紀の川の河口に近い狐島宮前バス停で、初めてそんな声をかけられたのは十数年前。白い杖を持つ自分に女の子が教えてくれた。腰の辺りを指でチョンとつつき、ドアまで導いてくれる。「座らせてあげてください」と席の確保まで。胸が温かくなった。

進行性の難病「網膜色素変性症」と診断され、視力は落ち視野も狭まる。バイク通勤だったが、自転車にも乗れなくなり、最後にバス通勤に切り替えた。その子が卒業すると、妹や後輩が誘導役を嗣いでくれた。

和歌山大附属小学校に通う女の子たち4人である。感謝の念を、昨秋作文に綴った。全国信用組合中央協会のコンクールで大賞に選ばれたのがきっかけとなり、山崎さんはこの1月小学校を訪問。初めて4人と一堂に会することができた。

受賞作を読んでみる。「小さな親切のリレーで、退職までなんとか頑張れそうです」とお礼の言葉が続く。取材を終え、バス停に立つ。車の量が多く、風も強い。山崎さんにとって小さな手がどれほど心強かったことか。

今日から新年度。初めての駅や初めてのバス停に立つ方もおられよう。コロナのせいで人と人が隔たり、言葉をかけにくい状況は続くけれど、誰もが孤立しない1年間であってほしい。

